

行政視察報告書

1. 視察年月日

平成30年8月20日（月曜日）～平成30年8月21日（火曜日）

2. 視察場所

- ・静岡県御前崎市
- ・静岡県藤枝市

3. 視察事項

- ・原子力災害に関する避難計画について
- ・人財育成について

4. 視察参加者

総務文教常任委員8名

- ・委員長 細谷典男
- ・副委員長 小堤修
- ・委員 遠山智恵子
- ・委員 齋藤久代
- ・委員 結城繁
- ・委員 入江洋一
- ・委員 関戸勇
- ・委員 竹原大蔵

5. 視察報告

別紙のとおり

上記のとおり報告します。

取手市議会議長 入江洋一 殿

平成30年9月18日

総務文教常任委員長 細谷典男 ㊟

総務文教常任委員会視察研修報告書

氏名 細谷 典男

○視察先及び目的

- ・ 静岡県御前崎市役所
(原子力災害に関する避難計画について)
- ・ 静岡県藤枝市役所
(人財育成について)

○視察日

平成30年8月20日～平成30年8月21日

○視察報告

今回の総務文教常任委員会の行政視察は二つの目的を持って行いました。

一つは原子力災害に関する避難計画です。当市においては東海第二発電所の過酷事故を想定した広域避難計画において避難受入れ自治体となっています。課題としては、避難元の要望など把握し適切な避難所の提供にあります。

今回御前崎市役所を視察先としました理由の第一は浜岡原発の立地自治体であり避難元となっていることによります。また原発の周辺に住宅地が密集していること、御前崎市のほとんどが5キロ圏内にあることなど東海村と類似していることからであります。

御前崎市における避難計画の他にない特徴は、これはとりもなおさず浜岡原発が立地している特別な状況から来ています。

浜岡原子力発電所は、中部電力唯一の原子力発電所で1号機から5号機まで5つの発電設備がありますが、1号機と2号機は2009年1月に運転を終了し廃炉が決定しています。3号機から5号機までは運転停止中です。

また、防波壁は、地上高は海拔18mと引き上げられています。

現状における原発自体のリスクは全ての原発が稼働していないことや津波対策の充実などにもより極めて低減していますが、しかしながらも一方のリスクが東海地震、南海トラフにあります。

東海地震の予想震源域のほぼ中央にあり、活断層が直下にあるという説まで発表されており、耐震性の不足が懸念されています。

御前崎市の広域避難計画は原発事故による避難と東海地震の影響による避難という二重の計画となる複雑なものです。従って二種類の避難計画があります。

原発事故だけに対応する避難先として浜松市へ避難する計画が一つです。

もう一つは地震による原発事故となると浜松市も被災している可能性があること、あるいは災害対策の中心となることから第二の避難先として長野県を想定しています。このように複雑な変動要素のある計画となっています。

意見交換では

- (1) 原子力災害に関する避難計画の概要
- (2) 広域避難時の具体的な避難の流れ
- (3) 避難先における避難計画（活動計画）

(4) 避難計画に関する避難先自治体との連携・協力の状況

(5) 今後の課題

などをお聞きしましたが、計画の修正などがあつたため訓練を実施するまでには至っておりません。

避難訓練、住民への周知、福祉避難所、避難ルートの中のスクリーニングの実施ポイントなど、私たちとほとんど同様の課題に直面している現状であることを理解しました。

一方、避難にかかわる道路整備などの要望を行っていることなどが市議会議長から説明がなされました。また現地からは再稼働を求める声がありこの要望にも取り組んでいるとのことでした。

次にもう一つの目的はいかに人材育成をはかるか、という視点から静岡県藤枝市役所を視察いたしました。

市民の暮らしを支え「選ばれるまち」を目指して職務にまい進する職員を育てることを基本方針として、人材の材は材料ではなく、財産の財を当てています。まさに人は宝という考えで育成方針としております。

人財育成について

(1) 新・人財育成基本方針の概要

(2) 人財育成についての具体的な取り組み

(3) スペシャル・ジェネラリストの育成方法と育成状況・効果

(4) 「職員修練道場」、「職員寺子屋」の取り組みの内容と効果

(5) 人財育成に関する今後の展望や課題

など意見交換を行いました。

職員が職員を育てる「藤枝型職員養成体制」が特徴ある育成策でした。部長の武勇伝から学べ、という部長級職員の経験、能力、気概の伝承など「職員修練道場」として展開されていました。

また、専門知識を要する職員が他の職員に対して講義を行う職員寺子屋など藤枝式養成方式として行われていました。

先輩から仕事を学ぶということは一般的にはどこでも行われていることではありますが、これを組織だって効果的に実施していることが藤枝式と理解し、当市においても検討する価値があるのではないかと受け止めました。

以上のとおり報告いたします。

平成30年9月18日

取手市議会議長

入江洋一 殿